

# 事業報告

## 令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

令和4年9月17日(金)～19日(月)  
【対象】高校1年生～3年生  
【場所】国立信州高遠青少年自然の家  
伊那市長谷中尾・高遠藤沢

### 1. 趣旨

高校生に身近な地域についての課題を発見させ、オリエンテーション合宿を含む様々な体験活動を通して課題解決能力を身に付けさせ、主体的に行動できる人材を育成する。また、地域について学び考えていく中で地域の良さを再発見し、郷土愛を育ませる。

### 2. 事業の概要

(1)期 日 令和4年9月17日(土)～9月19日(月)

※ 当初の予定は、令和4年7月16日～17日、7月30日だったが、上記日程に変更した。

(2)参加者 3名(男子:2名、女子1名 / 高校2年生:2名、高校1年生:1名)

(3)日 程

9月17日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		開 会 式	ガイ ダンス	意見 交換	地域づくりの 実践① 講義①	昼食	移動	地域の魅力 を発見 フィールドワーク① 中尾歌舞伎を知る	宿泊棟 へ 移動	夕食	入浴	地域理解 講義②	課題解決の 基礎 焚火 話し合い	
		～信州高遠青少年自然の家～				～伊那市長谷 中尾座～				～信州高遠青少年自然の家～				

9月18日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	朝食	片 付 け	課題解決の 基礎 ふりかえり 演習	移動	地域課題の 探究FW ② フィールドワーク 高遠町藤沢を知る	地域課題の 探究① 移動	昼食	地域課題の 探究② ・地域課題を考える ・地域課題を解決する ためには	発表		野外調理			行動計画の 基礎		入浴
	～信州高遠青少年自然の家～				～高遠町藤沢～			～信州高遠青少年自然の家～								

9月19日	7	8	9	10	11	12
	朝食	清掃 荷物整理	行動計 画の基 礎	発表	実践活動の ための ガイダンス	修了 式
	～信州高遠青少年自然の家～					

### 3. 企画運営のポイント

- ・高校生に探究の基本的な考え方を理解させながら探究サイクルを体験させることで、今後の実践活動がより充実したものになるような機会とする。
- ・参加した高校生と地域の実践家との交流の機会を提供し、高校生が住む地元でどのような取り組みが実践されているのかを学び、そこで自分に何ができるのかを考える機会とする。
- ・野外調理や焚火等、自然の家のプログラムも組み込み、参加者どうしのつながりを深め、より充実した意見交換や話し合いができるようにする

### 4. 参加者の声(抜粋)

- ・内容がとても興味深かった。(「地域づくりの実践」)
- ・中尾歌舞伎に対する情熱・思いが伝わってきた。(「中尾歌舞伎を知る」)
- ・地域の「リアル」が聞けて、とてもよかった。(「高遠藤沢を知る」)
- ・堂々と発表できたことが、自信にもなって、成長したと実感できた。地域について興味が出てきて、これから生かしていきたい。学びも多かった。(「地域課題の探究」「発表」)

## 5. 事業中の様子

### 地域づくりの実践



焚火・話し合い

### 中尾歌舞伎を知る



高遠藤沢を知る

### 長谷での実践発表



信州ピザを作ろう！！



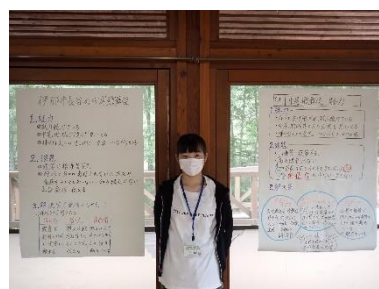
プレゼン用のポスターの前で①



プレゼン用のポスターの前で②



プレゼン用のポスターの前で③



## 6. 成果と課題

### (1) アンケート結果 回収3名

事業全体を通して	満足 : 3名	100%
	やや満足 : 0名	0%
	やや不満 : 0名	0%
	不満 : 0名	0%

### (2) 成果と課題

- 何かと忙しい高校生対象の事業であり、申し込みは3名であったが、講師、ボランティア、事業担当者等が丁寧に参加者の問いや不安に対応したり、参加者のプレゼンテーション作成・発表に時間をかけたりして、プログラムの一つ一つを充実させ、参加者の成長を見守ることができた。
- プログラムの中に、焚火や野外調理など自然の家ならではの取組を取り入れたことで、参加者及び講師、ボランティア、事業担当者相互の仲を深めることになり、話し合いや意見交換が活発となり、自分の思いをまとめた発表に生かすことができた。
- 当初、7月中旬に実施予定であったが、高校の文化祭と重なり参加者が集まらなかったため、日程を変更し改めて9月に実施した。しかし9月も中間考査付近であったため多くの参加者を得られなかった地域の高校生が集まりやすい時期について、前年度中に情報収集を進めたい。
- 本事業紹介のため幾つかの高校を訪問する中で、「探究の時間」については、上伊那地域の高校では各校が工夫を凝らして進められている一方、諏訪地域の高校では取組が十分でないことが見てきた。次年度以降、諏訪地域について探究するプログラムを検討したい。